

性に関係する。例えばミケトンファストオレンヂGRでは、その汚染度はテトロン>ナイロン>アセテート>絹>アスベスト>綿>レーヨン。(iv)汚染度は当布の織物組織や糸密度や毛羽などの状態に影響される。(v)テトロンフィルム各層への染料指数の状態を知ることは、サーモゾル染色機構をうかがう一助ともなる。セロファンは汚染度も少なく昇華染料分子も殆んど通過させない。(vi)アスベスト布を汚染した染料は、これを加熱することによって逸散させることができる。この機構はサーモゾル染色法の一改善策になると思われる。

㊦B—43 合成繊維染色布の染料昇華に関する考察 (第1報)

聖母女学院短大 松本 康之
○徳永紀代子

1. 合成繊維染色布を熱加工したり、家庭でアイロン掛けなどをする場合、染料の昇華堅牢度が屢々問題になる。そこで今回はポリエステル系繊維染色布を対象として、その染料昇華の様相を考察することにした。また別にその成果をサーモゾル染色法の改善策に役立たせたいと思う。

2. 染色法を異にするテトロン布(今回は高温染色法)を各種材質の未蛍光増白布あるいはフィルム数層(当布)で挟み、これをスコーチテスターで120~220°Cで適宜加熱したとき、原染色布の昇華退色と当該当布各層への染料汚染(または染着)の度合とを自記色彩計で測定し、その様相を検討する。

3. (i)染色布の退色度と当布の汚染度とは加熱温度及び時間に大いに影響される。(ii)当布各層間の汚染度の差は加熱時間の経過と共に、少なくなる。(iii)昇華性分散染料の当布への汚染度は、その染料と繊維との親和